

「余分な便利さ」仕分け必要

ジャーナリスト・枝廣淳子さんに聞く



私たちの社会や政治、経済がいかに脆弱な基盤の上に成り立っているか。一部のものだけに依存することがどれだけ危ういか。電力需要を減らし、自然エネルギーに転換していくことは可能だ。エネルギーも、使いたいだけ使うという考え方は変えていかねばならない。

首都圏は計画停電で建物や乗り物の中が暗くなっている。被災地のことを考えれば我慢できたり、困らないと感じたりする人は多いだろう。不要な場所に深夜まで明かりが煌々とともるような、「余分な便利さ」の仕分けが今後必要になってくる。

もう一つ、経済が効率性を重視し、在庫を持たない仕組みになっている。物流がストップしたことで大混乱に陥った一因だと思う。

陸上だけに頼るのではなく、海運にも重きを置く多様性や、車のハンドルでいう「遊び」(冗長性)ももっと大切にすべきだ。目の前の効率性にとらわれることなく、長期的に見て強い国づくりを考えなければならぬと感じる。

(談)

えだひろ・じゅんこ 環境ジャーナリスト。地球温暖化の危機を訴えたゴア元米国副大統領著「都合な真実」の翻訳者。